

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

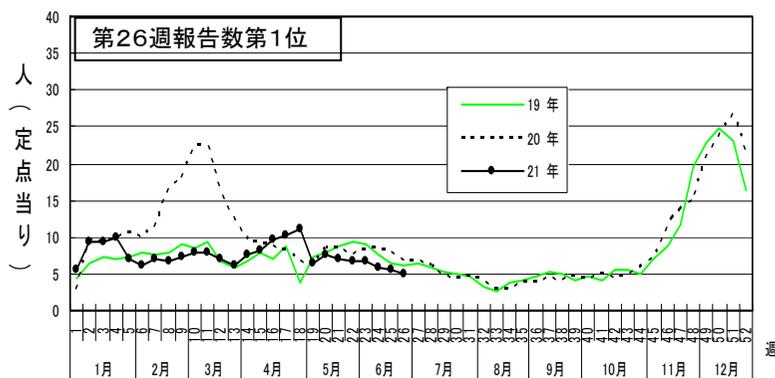


KAWASAKI CITY

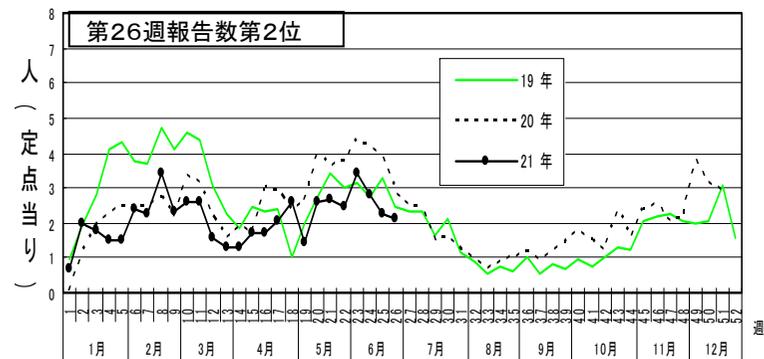
平成21年6月22日（月）～6月28日（日）〔平成21年第26週〕の感染症発生状況

第26週で報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 伝染性紅斑の順となっています。ヘルパンギーナが4週連続で増加しており、今週は前週の約2倍（報告数25件、定点あたり0.76）となっています。例年、7月にピークを迎えるため、今後の発生動向には注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



そろそろ流行 夏かぜヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、夏かぜの一つです。通常、5月から流行し始め、6～7月にピークを迎えます。今年は例年に比べて、流行の始まりは遅いですが6月2週より増加していますので今後の発生動向に注意が必要です。

○かかりやすい年齢

1歳が最も多く、ほとんどが4歳以下です。

○症状

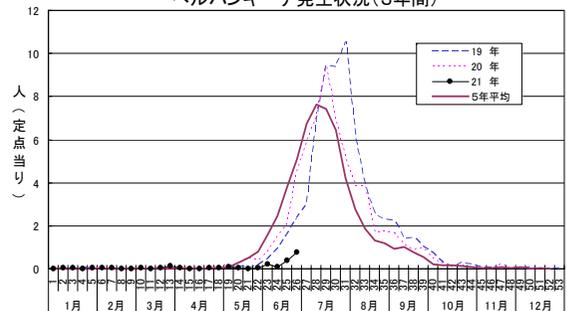
急な高熱とのどの痛み、のどの奥にできる水ぼうがが特徴です。

○感染経路

咳やくしゃみ、便にウイルスは含まれます。

便の中には回復後も2～4週間もウイルスがでてきますので、気をつけましょう。

ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



○治療

予後は良く、熱は2～4日程度で下がり、やや遅れて水ぼうがもなくなります。

○気をつけたいこと

のどの痛みから、水を飲むのも嫌がる場合がありますので、脱水しないように水分補給に気をつけましょう。

発行 川崎市健康福祉局健康安全室・衛生研究所・各区保健福祉センター（保健所）